



TITLE:

双子のマメトマト果実

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 双子のマメトマト果実. くろしお 2003, 22: 23-23

ISSUE DATE:

2003

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188192>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

くろしお, (22) : 2003

双子のマメトマト果実

久保田 信

Twin fruits of mini-tomato

2003年5月12日に和歌山県西牟婁郡上富田町朝来のスーパーマーケットで購入した1パックのマメトマト *Lycopersicum esculentum* Mill. var. *cerasiforme* (Dunal) (商品名: チェリートマト、原始的な野生種の特徴を残した栽培種で、多数の別称がある: プチトマト、ミニトマト、ヨーロッパトマト、ニュートマト) 果実の中の一個が双子状態 (図1) になっている事例に遭

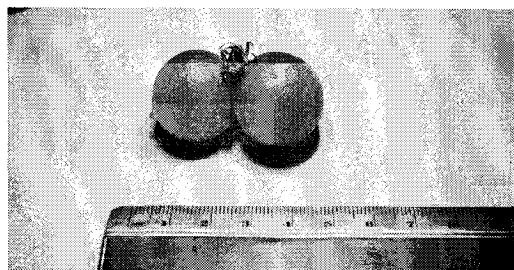


図1 双児のマメトマト
Twin fruits of mini-tomato

は等大で、それぞれの最大直径は26 mmと23 mmであり、いずれも正常の大きさと色 (橙赤色) であった。1本の枝梗からこれら2個の果実は完全に分離して形成されていたが、萼片は8本で、通常の5~6本より多かったが丁度2倍ではなかった。このような「双子」の誕生した原因は、対生または互生する総状花序の枝梗の2本が正常に分かれずに癒合し、それぞれに果実が癒着することなく実ったものと思われる。このような双子が、栽培の過程でどのくらいの頻度で誕生しているのか興味あるところである。もし目に付くような程度で誕生していても市場にはあまりででまわらないものと思われる。最後に、本例のような現象についての専門的諸知見をご教示下さり、原稿を査読して下さい京都大学の梅本信也博士に深謝致します。

遇したので報告する。一对の液果はどちらもほ

京都大学瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459)